

\*赤字部分が修正箇所

## 第2章 あと施工アンカーボルトの設計

### 第1節 基本事項

#### 2-1-1 適用範囲

本設計・施工要領（案）に示す「あと施工アンカーボルトの設計」は、母材に電気通信設備を据付固定するために用いるあと施工アンカーボルトの強度検討に適用するほか、器材の落下防止のための強度検討に適用する。

#### 【解説】

- (1) あと施工アンカーボルトの設計は、地震・風圧等による荷重が作用した際に、選定したあと施工アンカーボルトの耐力が十分満足し、アンカーボルトに引張破壊やせん断破壊が起こらないことを確認しなければならない。
- (2) 設備の落下等により第三者被害が懸念される箇所にあつては、設計段階において特に十分な安全性の確認を行う必要がある。
- (3) 適切な強度検討を実施するためには、母材となるコンクリート構造及び鋼構造、あと施工アンカーボルトについて十分な経験と知識を有する者による設計が必要である。
- (4) 器材を壁面又は天井面に設置する場合は、「共通仕様書」第3編3-4-4-4「器材の落下防止」により、二重落下防止の対策（**図3-2-5**）が施されたM8以上のボルトナットを選定するものとする。

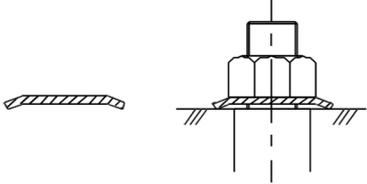
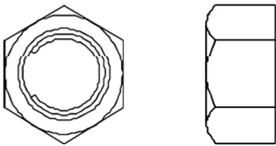
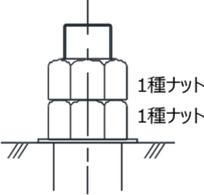
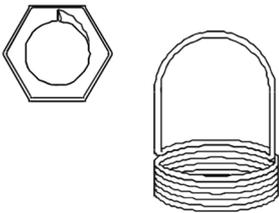
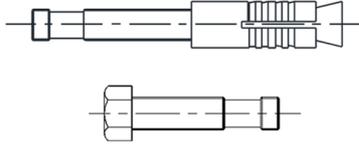
落下防止措置 種類 (参考例)		備 考
ゆるみ止め措置	○皿ばね座金 	JIS規格品
	○緩み止めナット 	NAS3350準拠の振動試験に合格しているもの
	○二重ナット 	電気通信設備工事共通仕様書 第20章 第3節 通信用鉄塔設置工 5-20-3-1 通信用鉄塔架設 5. による
脱落防止措置	○割りピン 	JIS規格品
	○ナット脱落防止 	NAS3350準拠の振動試験に合格しているもの  鉄塔用ボルト・ナット規格品 (日本鉄塔協会)
	○ナットの脱落防止装置付き あと施工アンカー・ボルト 	ねじ部段落としなどの脱落防止機構を有するもの

図 3 - 2 - 5 落下防止措置 種類

「二重落下防止」の具体化が不明確であったので、「物理的に異なる2種類（ゆるみ止め措置1種類、脱落防止措置1種類）以上の落下防止措置を組み合わせ、二重落下防止の対策とする。」ことの明示方法の例を示す。